

「ミサイル要塞化」問う写真展 うるまであすから 市民の会

「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」の準備会は26日(土)～4月17日(日)の土日に「南西諸島ミサイル要塞化写真展」をうるま市内4カ所の公民館で開催する。準備会の宮城英和事務局長＝写真中央＝らが23日、県庁で会見し「市民がミサイル戦争に巻き込まれかねない危機感を共有して、沖縄を再び戦場にさせない運動を構築していきたい」と語った。

東アジア共同体研究所琉球・沖縄センターが協力。沖縄や奄美の陸上自衛隊ミサイル部隊関連のイラストや住民の反対運動、1969年の米軍メースB核ミサイルの解体撤去作業の写真など約100点を展示する。



沖縄国際大名誉教授の照屋寛之さんは同市勝連の陸自勝連分屯地への地対艦ミサイル部隊の配備に触れ「台湾有事になれば、基地があるうるま市なども危険にさらされる。ミサイルの恐怖を共有してこの問題を考えたい」と語った。写真展は入場無料で26、27日の勝連内間公民館を皮切りに南風原、平敷屋、与那城の各公民館で開催する。

写真展を開催する「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会(準備会)」のメンバーら23日、県庁



2022年3月23日
南西諸島への米軍や自衛隊によるミサイル配備につ

新報 ミサイル配備 反対訴え うるま 市民ら26日から写真展

いて考える「ミサイル要塞化の危機・写真展」が26日から、うるま市内4公民館で順次開かれる。主催は有志でつくる「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会(準備会)」。日本復帰前の沖縄にあった核兵器や自衛隊のミサイル配備計画に関する写真など100点を展示する。

防衛省は沖縄本島初となる陸上自衛隊地対艦ミサイル部隊を勝連分屯地に置く方針。主催団体メンバーの伊波義安さん(80)は「写真展を契機にミサイル基地反対の意識が広がることを期

待したい」と述べた。
写真展は内間(3月26、27日)南風原(4月2、3日)、平敷屋(9、10日)、与那城(16、17日)の各公民館で午前10時～午後4時。